
月光は紅をも白く染めて

コバトトロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月光は紅をも白く染めて

【Nコード】

N5621Y

【作者名】

コバトトロ

【あらすじ】

満月は狂気を表し、満月の夜には狼男が姿を現す。

青年は少女に草むらで狼男について淡々と語りだす。

（前書き）

ちよっぴりホラーなお話です。

青白い光の中の草むらで青年と少女の話が消え入るような声で聞こえる。

「これは内緒話だよ。」

青年は言った。

「とある男が居てね、男は満月を見ると狼になるんだ。」

「なぜ狼になってしまふの？」

少女は言った。

「お月様の兎さんが魔法をかけたの？」

青年は優しい顔をする。

「そうなんだ。とっても悪い魔法さ。」

この場合は、呪いと言っただ。

呟いた青年はそっと立ち上がって薄い雲のかかった月を指さし、言う

「正確には狼が本来の姿なんだ。

ある時、月でお祭りがあった。

いろんな動物が呼ばれてね。

その中に狼もいたんだ。ただ、彼は凶暴だった。

兎を一匹、喰い殺した。」

「どうして？なんで狼さんを月に呼んだの？」

私なら、怖くて呼べないよ。」

少女の表情には不安が広がっている。

青年は少女を愛おしそうに撫でた。

「話は続くよ。」

当然いろんな動物が怒り狂った。

中には今すぐ狼を殺してやろうと立ち上がった者もいた。

だけど次の瞬間には狼も、そういう奴らも含めて、全員が震え上がった。

仲間を殺された兎たちは眼を綺麗な赤に染め上げて、

喰い散らかされた仲間を臼に入れていったんだ。」

ペタン、ペタンついたんだ。

「怖いよ。なんでそんなこと・・・」

少女は不安で動悸がした。息苦しい、助けて。兎さん・・・

「ごめんね。でも最後にまだ話をさせて。

兎たちは狂気に染まる眼で狼を見ながら言った。

【このお餅はまた食べさせてあげましょう】

【あなたは悪いお方だから、どこへ行っても悪いでしょう】

【だから増えすぎた人間を喰えば良い】

そういつて月から狼を突き落した。

起きた時、狼は人間の姿になっていて、それから毎晩のように人を殺しては食べた。

でも美味しくなかったんだろうね。

満月になって兎が良く見えるようになって、狼は

【まだ餅はつき終わらないのか】って元の姿に戻るんだ。兎の呪

「いも効かないくらい。」

少女が言う。

「今日は、満月だね。でも雲がかかってる。」

青年が言う。

「ああ、幼い子が美味いんだ。」

少女が言う。

「狼さんはどこかで元の姿に戻ってるのかな。」

青年が言う。

「もう少して戻れる。あの雲がとれたら。」

少女が言う。

「お母さんは・・・どこだろう?」

青年が言う。

「あまり美味しくなかったな。」

綺麗な満月が現れた。青白い光で包まれる。

「兎の味を思い出して食べるんだ。」

「さて、次の満月は誰にしようか」

（ F i n ）

（後書き）

自分はまだまだ未熟者なのです。

小説などでわかり辛い伏線や、結局わからなかったところは自分の妄想で補完してしまいます。

作者の意図がつかめていないのだと思います。

だからわかり辛い文章を少しばかり書きました。

この文章から狂気やちょっとした怖さが伝われば良いなと思っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5621y/>

月光は紅をも白く染めて

2011年11月16日03時06分発行